

三重大森林スタディツアー活動報告

作成 H25. 7. 15 清水 環

写真 ジュリアさん

- 1. 開催日 : 2013. 7. 11 猛暑
- 2. 内容 : 三重大学大学院生物資源学研究科と
森林総研関西支所の連携大学院
「自然共生学特論」の集中講義の一環
- 4. 参加者 : 三重大学大学院生物資源学研究科 松村直人先生
森林総研関西支所 奥敬一先生
自然環境システム学講座より坂本竜彦先生
三重大学大学院修士1年4名 大学4年1名
(フォーラムのパネリストだった羽田さん)
バングラディッシュ、インドネシアからの留学生
ジュリアさん、瀧口、清水



①企業の森（東芝の森）見学。地域、自治体、企業、NPOの協働について説明、それぞれの役割、システムについての質問が多かった。留学生からは、「間伐」の必要性、伐り捨てて搬出しないことについて質問があった。

②三重県環境情報学習センターにて昼食。ラマダン中のイスラム教徒のお二人が何も飲まず何も食べていなかった。昼食後、センターの屋上にあるソーラーパネルを2機種見学した。1種はガラスのように光を通すパネルなので、下から空が見える。だから壁面もガラス代わりに使える（鈴鹿市役所に採用されているそう）が、発電効率は透き通っていないパネルの1/3。鈴鹿山脈を一望。

③まなびの森で、竹ポットによる植樹苗の育成を見学。企業の森でもそうだったが、森林NPOが資金面でどのように成り立っているのかという関心も高かった。

④錫杖湖畔、企業の森である百五の森植樹地を松村先生の案内で見学。近くの、森林の風植樹地と同様に活着が難しいそう。主に地質的な面とシカ害が問題の模様。森づくりでは最近、拡大造林期に増えた人工林から広葉樹林への変換がよく言われるが、奥先生によると、研究者の間では実際には難しい面も多いとの声がかかるそう。

